

観天 望気

ローカルへ、風が吹く

イスラエル、イギリス、米国など、ワクチン接種が進んでいる国々ではコロナ禍は収束モードに入りつつあり、人々の視線はポストコロナの時代に向き始めています。今、厳しい状況にある日本でも、ワクチン接種が進めば必ず同じ展開になるでしょう。それはどんな時代か？

私は、一言で言えば、ローカルへの風が吹き出す時代になると考えています。理由の一つは、この間もデジタル技術の進化とサイバー空間の拡大は加速し、働く場所の自由度が著しく広がったことです。

また、過密大都市が、天災だけでなく感染症に対しても極めて脆弱なことが明らかになりました。人口面での「東京一極集中」が言われて久しいですが、実は最近の都道府県別のGDP成長率で東京はおおむねワースト10で、上位は茨城県や山形県など地方の農業県、観光県が占めています。過剰集積がむしろ生産性を下げているのが今の東京の姿。生活実感としても、高すぎる家賃、長すぎる通勤、満員電車……経済効率が高い暮らし方、働き方とは言えず、地方から東京に来た若者は生活苦で結婚も出産も難しい。だから出生率はダントツ最下位を走り続ける。

すなわち家も仕事も皆が大都市に一拠点集中することは、合理性も必要性もなくなるといえることなのです。

そもそも私がL（ローカル）型産業と呼んでいる農林水産業、食品、交通、飲食宿泊、小売、生活サービス、娯楽、医療介護などの地域密着型産業は、既にわが国GDPの7割、雇用の8割を占めています。こうした産業には生産性の伸びしろもたくさんあります。グローバル化が進んでいままさら大規模工場が国内にどんなできて大量の雇用を生むことはなく、またデジタル時代のハイテク新産業が多くの中間層雇用を生まないとすれば、こうしたL型産業がますます日本経済のけん引車になるのです。

皆さん、一緒にローカルへの風をつかむべく頑張りましょう！



富山 和彦

株式会社日本共創プラットフォーム (JPIX)
代表取締役社長

とやま かずひこ

1960年生まれ。ポストンコンサルティンググループ、コーポレートディレクション代表取締役を経て、2003年産業再生機構COO就任。07年経営共創基盤 (IGPI) を設立し代表取締役CEO、20年10月より同グループ会長。20年、地域密着型の産業や企業を投資・経営で支援する日本共創プラットフォーム (JPIX) 設立。